

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
本丸地区

平成23年2月

栃木県壬生町

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	土地区画整理区域内人口	人	150	500	128	確定 見込み ●	△	あり なし ●	132	H22年4月	△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	優良宅地の造成が交付期間最終年度であったため、交付期間中は住民の誘致までにはいたらなかった。今後、積極的な誘致を行い当初目標を達成させる。
指標2	壬生駅乗降客数	人/日	2,900	3,000	2,100	確定 見込み ●	△	あり なし ●	2,270	H22年4月	△	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	少子高齢化により壬生高校の学生数が減少し、壬生駅を利用する学生数が減少している。
指標3	壬生城址公園内施設利用者数	人/年	88,000	97,000	97,500	確定 見込み ●	○	あり なし	98,753	H22年4月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地区の歴史的な風情を活かしたまちづくりや、施設内イベントの充実が町内外へのアピールになり、集客の向上が図られている。
指標4	災害発生時の初動時間	分	40	10	10	確定 ● 見込み	○	あり なし			○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	水防倉庫・防災研修センターの整備により、初動時間の短縮が可能となった。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	土地区画整理区域内消火活動困難家屋数	戸	31	/	0	確定 ● 見込み	/	/	/	/	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	土地区画整理事業により、事業区域内の消防車両進入困難道路が解消された。
その他の数値指標2	八坂祭観光入込客数	人	12,000	/	15,500	確定 見込み ●	/	/	20,000	H22年8月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	地区内の歴史的な風情を活かしたまちづくりの推進により、地区のアピールが年々図られている。また、コミュニティ広場の整備により、八坂祭等町中イベントでの溜まり場が創出され、人々の交流が促進された。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<ul style="list-style-type: none"> ・成果を持続させるために行う方策 	中心市街地活性化につながる各種ソフト事業の展開	・地元主体により八坂祭、蘭学通り祭りを例年通り実施。	・本事業で整備したコミュニティ広場が大いに活用され、人々の交流が促進された。	・区画整理事業の保留地分譲等による新規世帯も巻き込んださらなる交流の促進。
改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策 	保留地の分譲	・町ホームページ及び町内広報誌への掲載。 ・手づくりパンフレットによる広報活動。	・1次募集11区画の内、3区画の契約が締結され、また、2次募集区画の問い合わせが寄せられた。	・ポスター作成による啓蒙活動。 ・保留地分譲パンフレットの充実。 ・栃木県内外への啓蒙活動。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
保留地完売後の農地等の更地の宅地化を促進する	・一部の地権者は換地処分を待ち宅地化を希望しているため、換地処分の早期実現。	目標平成25年度	・保留地の完売。 ・一部未同意者への合意形成。

都市再生整備計画(清算報告)

ほんまる
本丸地区

とちぎ みぶまち
栃木県 壬生町

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	栃木県	市町村名	壬生町	地区名	本丸地区	面積	118 ha
-------	-----	------	-----	-----	------	----	--------

計画期間	平成 17 年度 ~ 21 年度	年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度
------	------------------	----	------	---------------------

目標

- ・本地区は、壬生町の中心となる市街地であるが、道路整備水準が低く、徐々に宅地化が進んでいる。またスプロール化が進んでいることから、土地区画整理事業により、公共施設の整備改善を図ると共に、良好な住環境を持った住宅地としての市街地を整備する。
- ・生活道路を整備することにより、排水環境の向上、人々にやすらぎと、潤いを与える空間を形成するとともに、くらしのみちづくり事業、まちづくり総合支援事業により整備した道路を生かし、まちなか散策路を形成し、地区内公共施設と地元商店街と連携を図り、まちなかの賑わいを復活させる。
- ・地区のメインストリートである蘭学通りと町庁舎を結ぶ道路を整備し、来訪者へのアクセスと利便性向上を図る。また、人々が集い、城下町としての歴史や文化を感じられる広場を設けることで、町の新たなシンボルロードに位置付け、生き生きと活気の生まれる中心市街地を形成する。
- ・防災についての研修施設や消防団施設などの整備充実を図り、人々が安全・安心で快適に生活できる元気なまちを創造するため、消防防災拠点を整備する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・本町は、江戸時代には鳥居氏の城下町として、日光西街道の城下町として栄え、また黒川を利用した河川交通の要衝として、今日の壬生町の基礎が築かれた。このような歴史的背景のもとに「まち」が形成され、壬生城址を中心に歴史を感じさせる社寺や名残が数多く現存している。地区内には、慈覚大師円仁の出生の地として知られる紫雲山壬生寺があるが、付近には1.8m程度の狭い道路しかなく、その誇るべき資産に対する意識が薄れている状況にある。公共下水道、上水道も未整備であり、また雨水対策についても苦慮している状況にある。また、救急車両等も進入できない状況にある。近年隣接地区では土地区画整理事業が終了したため、急激な宅地化が見込まれ周辺地区からのスプロール化が懸念されるため、公共施設の整備改善を図り良好な住環境を持った住宅地として整備する必要がある。
- ・まちづくり総合支援事業、くらしのみちづくり事業等で整備した道路、高質空間形成施設等を擁する区域が、平成17年1月に『美しい日本の歩きたくなるみち500選』（主管：(社)日本ウォーキング協会・後援：国土交通省等）に選定されている。今後、区画整理事業により増える人口に対して、より満足度の高い住宅環境を提供するために、更なる基盤の整備を図っていく必要がある。また御里土地区画整理事業については5箇年計画のうち当初より2年間まちづくり総合支援事業で補助されたので、残りの3年間も是非補助金導入が要望されている。
- ・地区のメインストリートである蘭学通りには、旧来から商店街が形成され、中心市街地として栄えてきたが、郊外店舗の進出や後継者不足などにより、空き店舗が増えるなどして徐々に衰退している状況である。また、周辺は木造建物が密集しているため火災発生の際、被害拡大が危惧されている。付近を流れる一級河川黒川は堤防未整備の箇所があるため、災害に強く、人々が安心して安全快適に暮らせるまちづくりが求められている。

課題

- ・本地区は、本町南部市街地にあって町振興計画、都市計画マスタープランにおいて良好な住環境を形成していく地区として位置付けられているが、道路や上下水道、公園等が未整備のまま町中心部からのスプロール化が進みつつある。そのような状況から地元住民によるまちづくりに対する期待が高まり、基本構想検討がなされてきた。組合施行の土地区画整理事業による市街地整備の方向性で地域の合意形成、組織づくり、まちづくり勉強会等の積極的な啓蒙活動が必要とされる。
- ・町道1路線が未整備であるため中心部の回遊性が妨げられていると共に、円滑な雨水排水が確保されず、居住環境の低下も招いている。そこで整備を図ることによりこれを解消し、また壬生駅周辺整備の起爆剤としたい。
- ・電線の地中化するなどにより整備された蘭学通りを舞台に、蘭学通り祭りや八坂祭などのイベントを開催しているが、通り沿いに人々が集い、憩う、溜まりの場がないことから、交流を促進し、中心市街地の活性化に寄与する公共空間の整備が求められている。

将来ビジョン(中長期)

- ・本町の中心市街地である本丸地区は「まちづくり総合支援事業」や「くらしのみちづくり事業」等により通りを整備し、土地区画整理事業も事業開始となった。「まちづくり交付金」により更なる整備を進め、蘭学通りを中心とした消費者が買い物しやすい環境をつくり、人々の生活を支え、身近な歴史、文化とふれあうことによるまちなかを形成し、中心市街地の活性化を図る。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
土地区画整理区域内人口	人	御里土地区画整理地区内居住者	・良好な宅地が供給され、地区内居住人口が増える。	150人	H15年度	500人	H22年度
壬生駅乗降客数	人/日	東武鉄道壬生駅の一日乗降客数	・観光資源として確立されると電車利用による観光客が増える。	2,900人	H14年度	3,000人	H22年度
壬生城址公園内施設利用者数 (図書館、公民館、歴史民族資料館)	人/年	年間利用者数	・まちなか利用者が増えるに従い知名度もアップし利用者が増える。	88,000人	H15年度	97,000人	H22年度
災害発生時の初動時間	分	堤防決壊など災害発生時の初動時間	・初動時間の短縮により、安心安全なまちづくりを図る。	40分	H18年度	10分	H22年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> ・区画整理区域内の狭小道路を改善し、地区の骨格道路として片側歩道付の9.0m道路を、他の区画道路については6.0m程度の道路を整備する。9.0m道路については、近隣区へのアクセス道路、また中学校への通学路としての機能も兼ね備える。 ・散策路としての更なる整備のほか、通行者の安全確保・周辺の雨水排水対策を講じる。 ・町のメインストリート「蘭学通り」と町庁舎を結ぶアクセス道路を整備し、来訪者への利便性向上を図る。 	土地区画整理事業(基幹事業) 道路整備事業(基幹事業)
<ul style="list-style-type: none"> ・狭小道路を改善し、区画道路に改築するに伴い、全地区内道路に污水管を布設し、雨水排水管も布設する。併せて上水道も整備改善する。 	土地区画整理事業(基幹事業) 公共下水道事業(関連事業)
<ul style="list-style-type: none"> ・公園を地区面積の3%以上新設し、地域の憩いの場として、年配者はもとより子供たちが安心して遊べるような施設として利用できるよう整備する。 ・防災体制を強化し、人々が安心して快適に生活できるよう水防倉庫や防災研修センターを整備し、同時に地域防災を担う消防団施設も整備することにより、災害に強いまちづくりをする。なお、防災研修センターは平時の防災団体等(消防団等)の会議室や研修室となるほか、災害時においては、防災団体等の出動待機所や、国や県、その他関係機関等と通信連絡を行う災害対策施設としての役割も発揮する。 ・人々が集い、城下町としての歴史やまちの文化を感じ、生き生きと過ごすことのできる多目的広場を整備する。 	街区公園整備事業(基幹事業) 地域防災施設整備(基幹事業) 防災研修センター整備(基幹事業) コミュニティ広場整備(基幹事業) 消防団施設整備(関連事業)
その他 ○交付期間中の計画の管理及び事業終了後の組織作りについて 交付期間中においては、各種事業を円滑に進めるため、地元組織や各種団体からの意見を聴衆し、事業の進め方や保留地の公売等に反映させていく。 まちなかの賑わいを復活させるため、近隣商店街との連携、イベント、祭等、住みたいまちづくりへの活動を活性化していく。	

